

幼保連携型認定こども園 小中野保育園

令和7年度 自己評価・自己点検

職員34名

総合評価		A: 達成できた C: 普通	B: ほぼ達成できた D: 今後努力を要する					実施日	2回目: 令和 8年 3月 5日	
項目	内容	評価				総合評価	評価・反省・改善策			
		A	B	C	D					
園の基本姿勢	1	園の教育・保育理念や目標及び重要事項を理解している。	48%	41%	11%	0%	A	<ul style="list-style-type: none"> ・自園の教育・保育理念等を、自分の中できみ砕いて理解し保育に繋げられるようにしたが、まだできていない部分もあるので、引き続き努力していきたい。 ・進級当初は表情が固かったり保育者との距離があった子が、少しずつ慣れて自分を出せるようになってきたと感じる。保育者との信頼関係を基にして、子ども達の自立に向けた指導を進めていけるということを日々の保育の中で強く感じた。 ・言葉の出始めの子が、どうしたらうまく伝えられるか考えて、その子に合った関わり方でお話をゆっくり楽しむことが出来た。食事の時間を楽しい子、好き嫌いが多い子に対し、うまく進められない時期もあったが、保護者のやり方から学ぶこともあり、根気強く向き合う大切さを改めて感じた。 ・同じ月齢でも発達の進み具合が違うことを理解し、一人ひとりの発達や特性に合わせた援助ができた。 ・療育に通っている子について、担任と施設のやりとりなど、積極的に情報共有に努め、より良い関わり方を模索していくことができた。子どもの特性によっては、関わりを持つことより一定程度距離を置いて見守ることも必要であることを学び実践できた。継続して学んでいきたい。 ・園児が自分で考えられるように言葉掛けを工夫したが、個人差があり、考える前にあきらめる子が多く見られた。言葉の方は絵本、紙芝居などでたくさん習得する事ができた。 ・発達の遅れが見られる子に対して、生活の中で慌てずみんなと一緒に過ごせるように職員同士で話し合い、工夫しながら対応し良い方向に進めることができたので良かった。 ・療育の先生や相談員さんからのアドバイスを取り入れ、対応することができている。 ・生活面や家庭環境等を配慮したり、保護者にも寄り添いながらお話ししたり、できることは支援しているが、なかなか問題解決には至らず、現状がこれ以上悪化しないようにもって考えていきたい。 ・関係機関との連携はとれてきたが、集団と個別支援の差や考え方が違い、すれ違いもあるので話し合いが必要だと感じた。 		
	2	教育・保育理念及び目標と教育・保育要領の関係を理解し、教育課程、教育・保育の全体的な計画、及び子育ての支援計画に基づいて、指導計画を立てている。	33%	56%	11%	0%	B			
第一章 総則	第1 教育及び保育目標									
	3	乳幼児期は周囲への依存を基盤にしつつ自立に向かうものであることを考慮して、周囲との信頼関係に支えられた生活の中で、園児一人一人が安心感と信頼感をもっていろいろな活動に取り組む体験を十分に積み重ねられるようにしている。	56%	37%	7%	0%	A			
	4	乳幼児期においては生命の保持が図られ安心した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくものであることを考慮して、園児の主体的な活動を促し、乳幼児期にふさわしい生活が展開されるようにしている。	52%	41%	7%	0%	A			
	5	乳幼児期における自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基盤を培う重要な学習であることを考慮して、遊びを通しての指導を中心として第2章に示すねらいが総合的に達成されるようにしている。	37%	56%	7%	0%	B			
	6	乳幼児期における発達は、心身の諸側面が相互に関連しあい、多様な経過をたどって成し遂げられていくものであること、また、園児の生活経験がそれぞれ異なることを考慮して、園児一人一人の特性や発達の過程に応じ、発達の課題に即した指導を行うようにしている。	41%	52%	7%	0%	B			
	第2 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画など									
	7	認定こども園においては上記を踏まえ、乳幼児期にふさわしい生活が展開され、適切な指導が行われるよう、調和のとれた組織的、発展的な指導計画を作成し、園児の生活に沿った柔軟な指導を行っている。	48%	45%	7%	0%	A			
	8	園児の行う具体的な活動は、生活の流れの中で様々に変化するものであることに留意し、園児が望ましい方向に向かって自ら活動を展開していくことができるよう必要な援助をしている。	52%	44%	4%	0%	A			
	9	言葉に関する能力の発達と思考力などの発達が関連していることを踏まえ、園における生活全体を通して、園児の発達を踏まえた言語環境を整え、言語活動の充実を図っている。	41%	51%	4%	4%	B			
	10	障害のある園児などへの指導に当たっては、集団の中で生活することを通して全体的な発達を促していくことに配慮し、適切な環境の下で、他の園児との生活を通して共に成長できるように、個々の園児の障害の状態などに応じた指導内容や指導方法の工夫を組織的かつ計画的に行っている。	22%	52%	19%	7%	B			
	11	また、家庭、地域及び医療や福祉、保健等の業務を行う関係機関との連携を図り、長期的な視点で障害のある園児への教育及び保育的支援を行うために個別の教育及び保育支援計画を作成し、活用すること、個々の園児の実態を的確に把握し、個別の指導計画を作成し活用することに努めている。	22%	52%	22%	4%	B			
	第3 幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項									
12	満3歳未満の園児については、大人への依存度が極めて高いなどの特性があることから、個別的な対応を図り、また、園児への集団生活への円滑な接続について、家庭との連携及び協力を図る等十分留意している。	44%	52%	4%	0%	B				
第二章 ねらい及び内容並びに配慮事項	第1 乳児期、満1歳以上満3歳未満、満3歳以上の園児の教育及び保育に関するねらい及び内容									
	13	「健やかに伸び伸びと育つ」の意味、ねらい、内容の取扱いを知っている。	52%	33%	15%	0%	A			
	14	「身近な人と気持ちが通じ合う」の意味、ねらい、内容の取扱いを知っている。	52%	33%	15%	0%	A			
	15	「身近なものに関わり感性が育つ」の意味、ねらい、内容の取扱いを知っている。	52%	33%	15%	0%	A			
	第2 教育及び保育の実施に関する配慮事項									
16	乳児は疾病への抵抗力が弱く、疾病への発生が多いことから、一人一人の発育及び発達状態や健康状態についての適切な判断に基づく保健的な対応を行い、また、生育歴の違いに留意しつつ、欲求を適切に満たし、特定の保育教諭が応答的に関わるよう努めている。	56%	37%	7%	0%	A				
17	乳児期の園児の保育においては特に、保護者との信頼関係を築きながら保育を進めるとともに、保護者からの相談に応じ支援に努めている。	56%	33%	11%	0%	A				

第二章 ねらい及び内容並びに配慮事項	18	満1歳以上満3歳未満の園児は、特に感染症にかかりやすい時期であるので、体の状態、機嫌、食欲などの日常の状態の観察を十分に行うとともに、適切な判断に基づく保健的な対応を心がけている。	67%	26%	7%	0%	A	<ul style="list-style-type: none"> 職員間で健康状態をしっかりと周知し合った。又機嫌が悪い、食欲がないなど、いつもと違った所なども伝えるよう努めた。感染症が流行した時は兄弟児の子は特に気を付けて視診したり、部屋、玩具の消毒なども強化して行った。 感染症対策について、発熱後24hの家庭観察、嘔吐、下痢時の登園の見直しなど、家庭への協力の呼びかけを徹底することで園内感染の減少を望めると思う。 自我が強い子の中には、自分の思い通りにならないと保育者を叫んだり叫んだりする子がいる。感情を受け止め、抱きしめてあげるだけで顔が緩んだり、素直に気持ちを切り替えることができていたので、関わり方の大切さを実感した。 個々の自分でやりたい気持ちを受け止めそれぞれの月齢に応じた援助をするよう心掛けた。情緒が不安定な子にはスキンシップを図り少しでも安心して園生活が楽しめるようにした。 発達に合わせた活動や遊びなど環境を整えて保育することができた。泣いている子にはその状況に合わせた声かけを心掛け、不安な気持ちを受け止めたり、安心できる環境を作ることができた。 1歳児クラスの分園からの転園の際に、環境が変わり情緒不安定なる様子が多く見られたが、その子の気持ちに寄り添った保育を心掛けることができた。また家庭との連携を図り、発達の過程にあるイヤイヤ期と一緒に乗り越えていけるよう援助ができた。 園児が自ら選択する場面では男女問わず自由に色や形、遊びを楽しめるように、一人ひとりの意志を尊重することができた。 色々な事に挑戦しようという意欲を持たせ、その子に合った声掛けや援助をした。時間はかかったが個々の成長をみることもできたので、今後も継続していきたい。
	19	満1歳以上満3歳未満の園児は、自我が形成され、園児が自分の感情や気持ちに気付くようになる重要な時期であることから、情緒の安定を図りながら、園児の自発的な活動を尊重するとともに促している。	59%	34%	7%	0%	A	
	20	園児の心身の発達及び活動の実態などの個人差を踏まえるとともに、一人一人の園児の気持ちを受け止め、援助している。	70%	26%	4%	0%	A	
	21	園児が自ら周囲に働き掛け、試行錯誤しつつ自分の力で行う活動を見守りながら、適切に援助している。	59%	37%	4%	0%	A	
	22	園児の国籍や文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てるようにし、また、園児の性差や個人差にも留意しつつ、性別などによる固定的な意識を植え付けることがないようにしている。	49%	47%	4%	0%	A	
第三章 健康及び安全	第1 健康支援							<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防の研修に参加することで、嘔吐時の感染予防対策の見直しができた。園内研修を行い、感染予防の手順の再確認や全職員への周知をすることができた。 アレルギーを有する園児について、家庭で試してもらい少しずつ食べられる食材を増やすことができた。発疹など出た場合は写真に残し、保護者と相談しながら進めている。また、与える量など医療機関への相談もお願いしている。園での除去食を与える際の複数チェックの体制は引き続き徹底している。 保護者からの食についての相談や悩みを受け、職員で共有し、食べやすい雰囲気や食べ物の形状など個人に合うものを選択し、家庭と共有しながら少しずつ進めた。結果、以前より食へ意欲的になり、保護者と喜びを共有できた。 アレルギー食材について、保護者と連絡を取りながら協力して対応することができた。家庭と園で少しずつ食材を取り入れることで、今では除去せず食べられるようになった。 できるだけ消毒回数を増やし衛生面に気をつけて保育することができた。 避難訓練での安全確保等の対応は行っているが、危険箇所点検が実施できていなかった。実際に大きな地震が起き、物が落下したり等はなかったが、今後はしっかりと点検をしていきたい。 避難リュックを定期的に点検することができた。しかし実際に避難した際に、水分補給用のコップなど足りないものもあったので、見直しや不足分を足して備えている。
	23	感染症やその他の疾病の発生予防に努め、その発生や疑いがある場合には必要に応じて学校医、市町村、保健所等に連絡し、その指示に従うとともに、保護者やすべての職員に連絡し、その予防などについて協力を求めることを知っている。	52%	48%	0%	0%	A	
	24	アレルギー疾患を有する園児に関しては、保護者と連携し、医師の診断及び指示に基づき、適切な対応を行うとともに、食物アレルギーに関して、関係機関と連携して、自園の体制構築など、安全な環境の整備を行っている。	49%	47%	4%	0%	A	
	第2 食育の推進							
	25	乳幼児期にふさわしい食生活が展開され、適切な援助が行われるよう、全体的な計画に基づき、食事の提供を含む食育の計画を作成し、指導計画に位置付けるとともに、その評価及び改善に努めている。	22%	52%	26%	0%	B	
第四章 子育て支援	第3 環境及び衛生管理並びに安全管理							
	26	危険等発生時対処要領に基づき、事故の発生に備えるとともに施設内外の危険箇所の点検や訓練を実施し、また、外部からの不審者等の侵入防止の為の措置や訓練など不測の事態に備え必要な対応を行っている。	40%	56%	4%	0%	B	
	第4 災害への備え							
	27	災害の章が新設されたことを踏まえ、危険等発生時対処要領に基づき、災害等の発生に備えるとともに、防災設備、避難経路等の安全性が確保されるよう、定期的にこれらの安全点検を行っている。	52%	41%	7%	0%	A	
第四章 子育て支援	第1 子育ての支援全般に関わる事項							
	28	教育及び保育、子育ての支援に関する知識や技術など、保育教諭等の専門性や、園児が常に存在する環境など、認定こども園の特性を生かし、保護者が子どもの成長に気付き子育ての喜びを感じられるように努めている。	59%	30%	11%	0%	A	
	第2 幼保連携型認定こども園の園児の保護者に対する子育ての支援							
29	日常の様々な機会を活用し、園児の日々の様子の伝達や収集、教育及び保育の意図の説明などを通して、保護者との相互理解を図るよう努めている。	45%	44%	11%	0%	A		
第3 地域における子育て家庭の保護者等に対する支援								
30	自園が持つ地域性や専門性などを十分に考慮して、その地域において必要と認められるものを適切に実施している。	33%	41%	22%	4%	B		
31	自園が持つ地域性や専門性などを十分に考慮して、その地域において必要と認められるものを適切に実施している。	33%	44%	19%	4%	B		
食育の推進・食事の提供	32	食中毒発生時マニュアルを作成し、その内容を定期的に見直し、共有している。	0%	100%	0%	0%	B	<ul style="list-style-type: none"> 園内研修で、災害時・非常時の非常食提供についての情報共有をおこない、保管場所や調理方法について説明したり、資料を回覧して全職員へ周知することができた。 献立のリポートリーを増やし、旬の食材や種類を増やしているが、まだ目標に届かない日もあるので、今後も献立の内容を見直ししながら、全体でバランスがとれるように努めていきたい。
	33	災害時マニュアルを作成し、その内容を定期的に見直し、内容を共有している。また、災害時に必要な食品を備蓄し、その管理を行うとともに、3日程度は食事が提供できる献立を作成している。	100%	0%	0%	0%	A	
	34	献立作成に当たっては、季節感や地域性を考慮し、品質が良く、幅広い種類の食材を取り入れるように努めている。	100%	0%	0%	0%	A	
	35	実施献立表から算出した給与栄養量と、給与栄養目標量を比較し、献立内容の改善を図っている。	100%	0%	0%	0%	A	